

AI活用の新時代：2026年、「使う側」から「設計・管理する側」へ

2025年に生成AIは驚異的に進化し、人間の知的作業の中核を担う存在になりました。2026年、私たちはAIを単に使うだけでなく、自律的に動くAIエージェントをいかに設計し、管理し、責任管理し、責任を負うかという新たな課題に直面します。

新たな常識：AIが業務を動かす「pre-AGI」時代

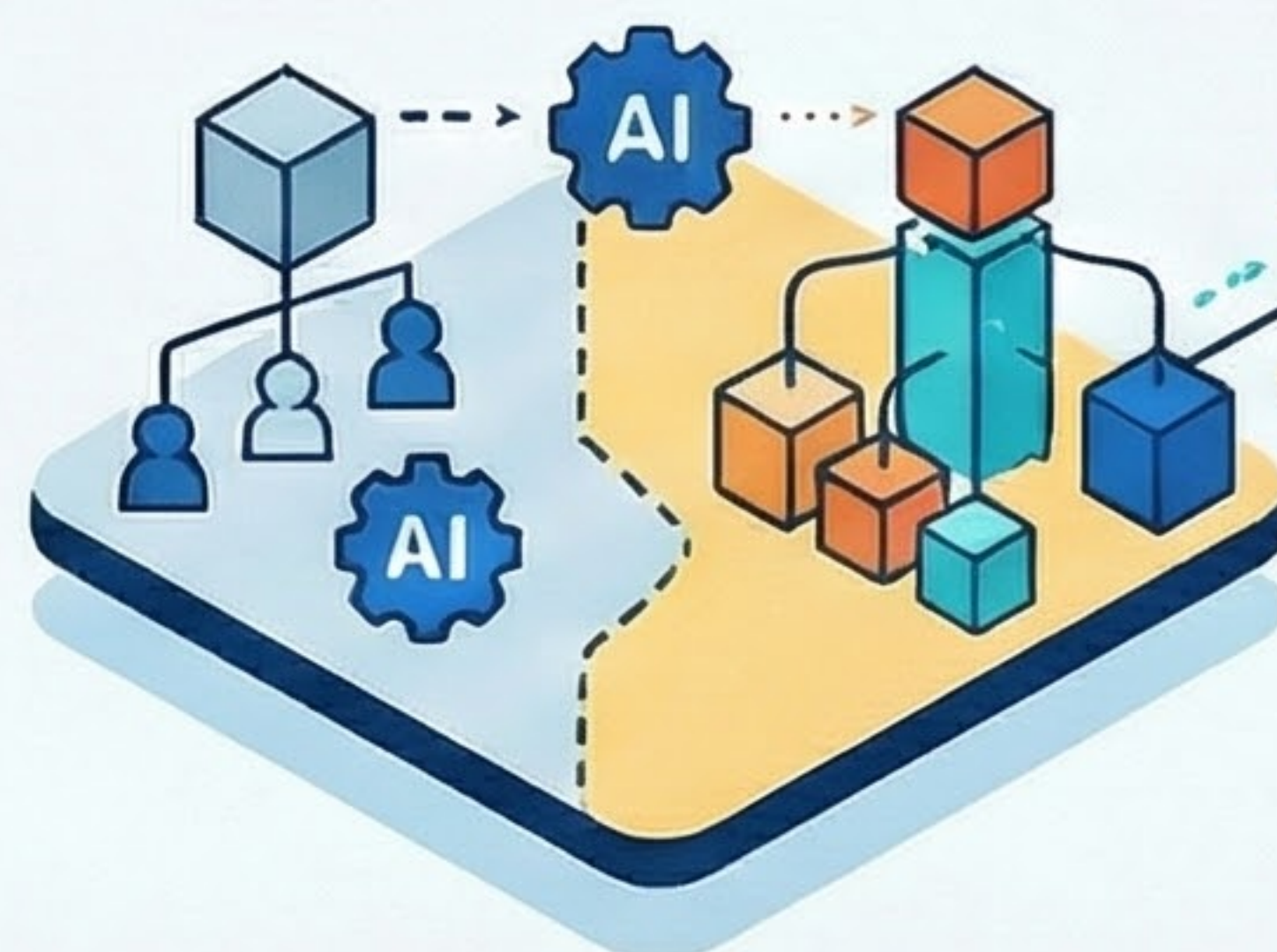


AI活用の焦点が変化

「AIを使えるか」ではなく、「AIをどう設計し、管理するか」が問われる時代へ。

AIエージェントの自律化

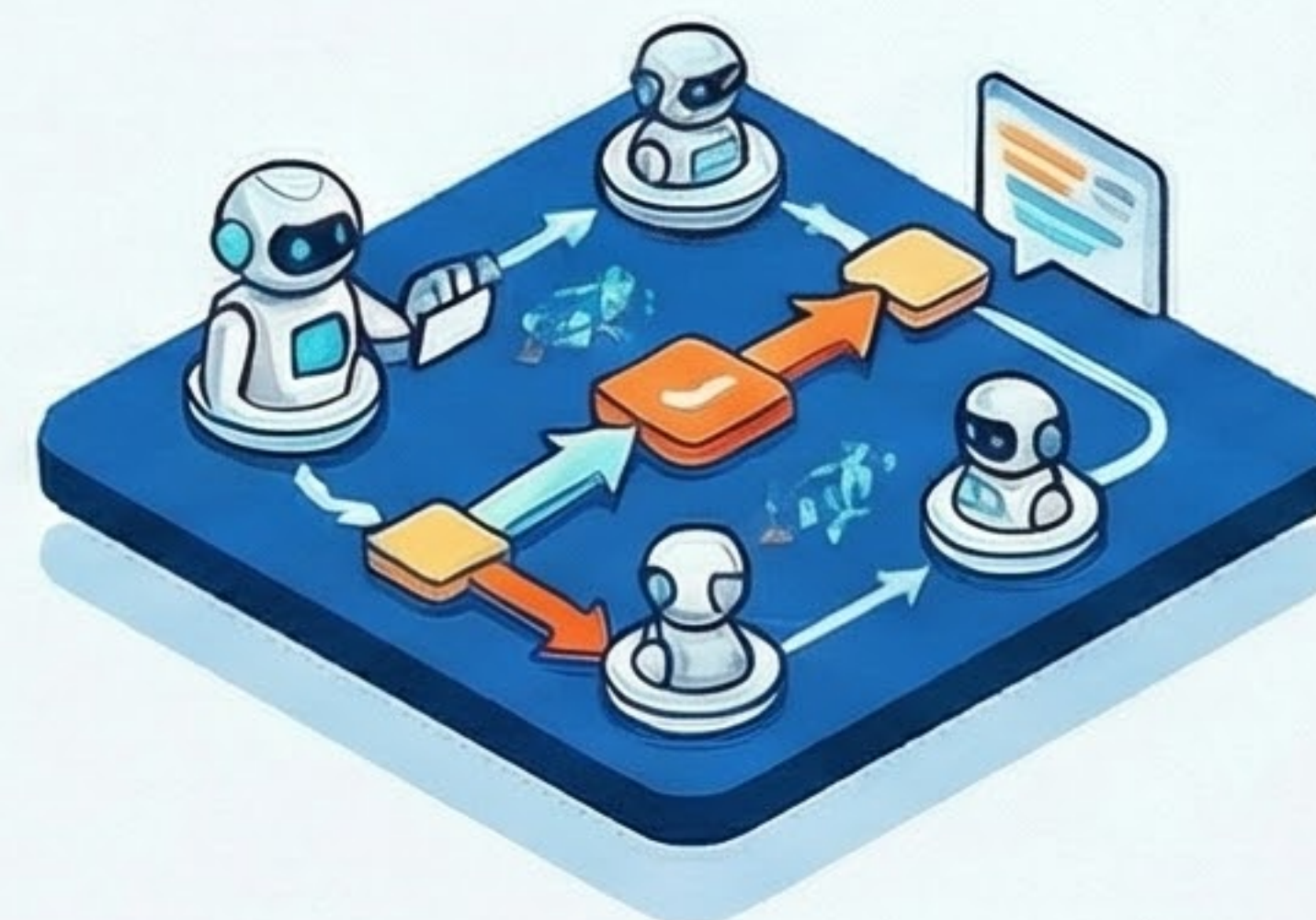
タスクごとの指示から、AIが自ら調査・仮説構築・提案を行う業務へ移行。



組織に生まれる「決定的な差」

AIを単に導入する組織と、設計・管理する組織との間で大きな差が生まれる。

2026年に取り組むべき3つのこと



1. 業務プロセスの再設計

AIエージェントが自律的に動くことを前提に業務フローを見直す。

2. 評価・判断ルールの明文化

AIの出力を評価・統合・棄却するための明確な基準を定める。



3. AIガバナンスの構築

知財、コンプライアンス、説明責任を含む「責任設計」を確立する。